

第12回「学習意識調査」報告書（概要版）

— 藤沢市立中学校3年生の学習意識 —
概要版にあたっては、「勉強の意欲」と「期待する授業」に特に注目してまとめました



藤沢市教育文化センター

ダウンロードはこちらから

<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/kyobun-c/index.cfm/8.0.53.html>

調査の概要

1. 調査の主旨

1965（昭和40）年以降、5年毎に繰り返し、ほぼ同一内容の質問紙を用いて学習意識を調査してきた。
長期間にわたって継続してきたねらいは、その時々における生徒の学習意識だけでなく、時代の趨勢を読み取り、これからの教育の方向を見定める上での重要な基礎資料を得るとともに、その成果を学校の教育計画立案推進のための基礎資料として広く提示していくことにある。本来2020年実施予定だったが、コロナ禍の影響で1年延期し2021年に実施した。

2. 調査項目

	調査する要因	調査番号	調査項目の内容
継続調査項目	帰宅後の学習態度	1	帰宅後の勉強時間
	学習の理解度	2	学校の勉強の理解度
	学習への自信	3	学校の勉強についていく自信
	学習の意欲	4	勉強の意欲
	学習への集中度	5	勉強への集中度
	自由への願望	6	勉強以外の自由時間に対する願望
	学校外活動の実態	10	学校外活動の種類
前回までの追加項目	相談相手の実態	7	勉強に関する悩み事の相談相手
		8	勉強以外の悩み事の相談相手
	学校の意義	9	学校で一番大切な事柄
	勉強観	11	授業に期待する事柄
	学習の意欲（理由）	4	4の選択肢を選んだ理由
	勉強のイメージ	15	勉強という言葉から思い浮かべたイメージ
新項目	SNSの利用	13	SNSの利用時間と用途
	性別による回答傾向	14	内省志向と謙遜

3. 調査対象及び調査期間

藤沢市立中学校3年生全員（全19校、3,461名）
2021年（令和3年）5月10日（水）～6月18日（金）

4. 集計方法

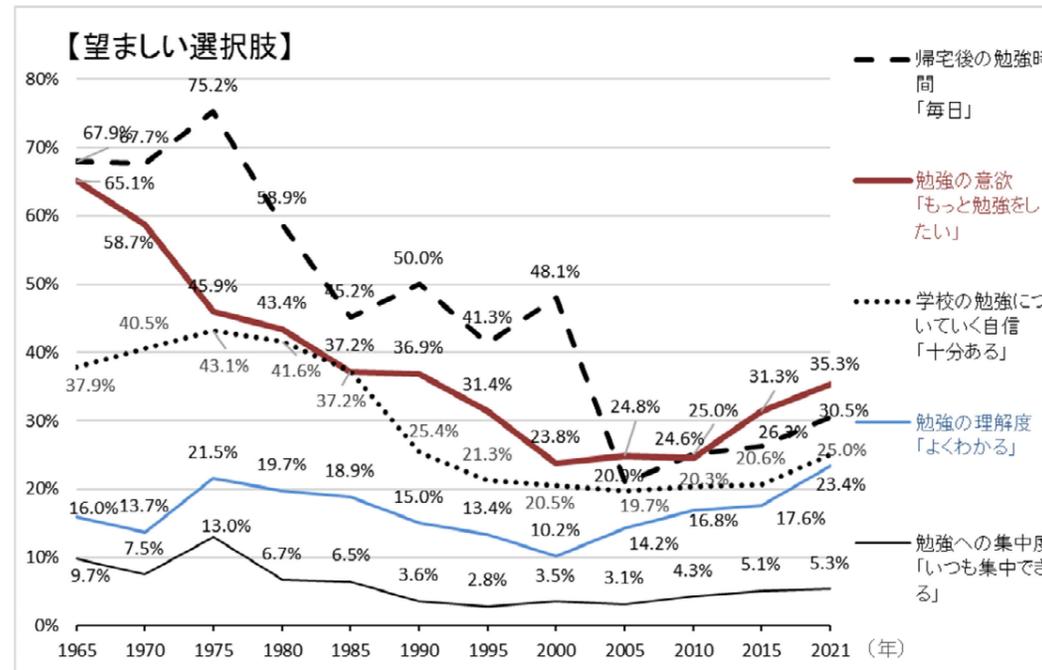
- ①時系列比較
単純集計結果を百分率（%）で表し、1965年（昭和40年）以降のデータと比較した。
- ②追加項目・新設項目の集計
単純集計結果を全体・男女別に百分率（%）で表し、前回の調査までの追加項目については、過去のデータと比較を行った。
- ③クロス集計
単純集計の結果 必要と判断された項目間でクロス集計を行った。

今回の特徴的な結果

- ① 「学習の理解度」「学習への自信」「学習の意欲」などに継続調査項目において、「望ましい選択肢」を選ぶ生徒が増加している。
- ② 「勉強に関する悩み事」「勉強以外の悩み事」の相談相手として、父、母を選ぶ生徒が増加している。
- ③ 「学校の中で一番大切に思うもの」は、「友達づきあい」を選ぶ生徒が最も多く前回から増加に転じているが、「勉強」を選ぶ生徒も微増している。
- ④ 期待する授業として「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」「将来に役立つ知識や技術を身に付ける授業」を選ぶ生徒が増加してきている。
- ⑤ 「学習の意欲」を測る項目のうち、「責任感」に関わる回答が増加している。
- ⑥ SNSを利用する時間が長い生徒ほど、学校で一番大切に思うものに「勉強」を選んだ生徒は減少する。

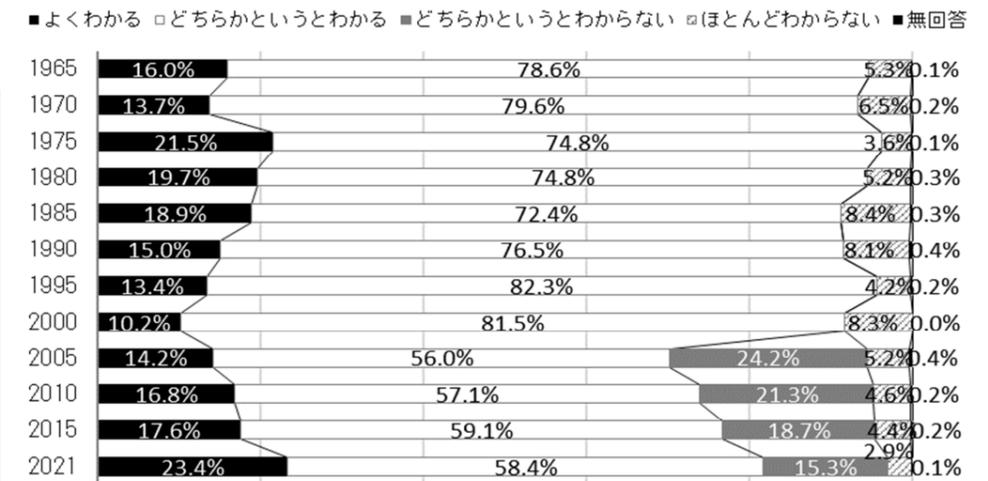
① 勉強の意欲・理解度など 「継続調査項目」で望ましい選択肢が増加

〔報告書 p. 9, 11, 25-27, 85〕

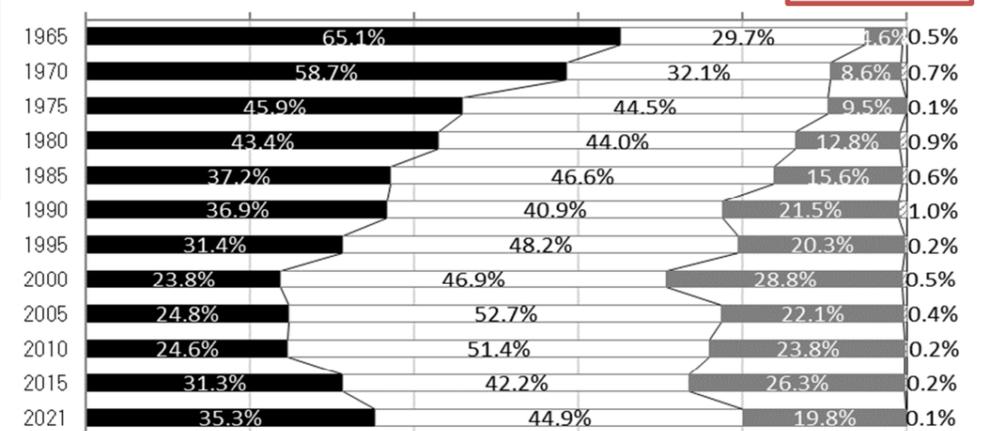


■「望ましい選択肢」では「毎日（=平日）勉強する」、「もっと勉強したい」、「勉強がよくわかる」、「勉強についていく自信が十分ある」と前回に比べてすべての選択肢の数値が増加した。
■「勉強がよくわかる」と答えた生徒の割合は、2000年の10.2%から2021年の23.4%と非常に増えている。覚えている知識の量を問うだけでなく、自分の考えを表現したり、課題解決的な学習に取り組んだりする授業の中で、「わかる」と感じた生徒が増え、そのことが「もっと勉強したい」という意欲につながったのかもしれない。また「勉強がよくわかる」など望ましい選択肢の割合の増加は、2000年から各学校で取り組まれた授業改善やカリキュラムの工夫、新たな評価方法、また個別学習支援事業などの成果とも考えられる。しかし、話はそう簡単ではない。経済や社会の影響を間接的にうけていることも事実であろう。

勉強の理解度



勉強の意欲



「もっと勉強したいと思う理由」

- 1 進学や受験のためになるから 47.5%
- 2 今の勉強ではたりないから 22.9%
- 3 自分の将来の夢や生活のためになるから 17.1%

勉強したいと思う理由

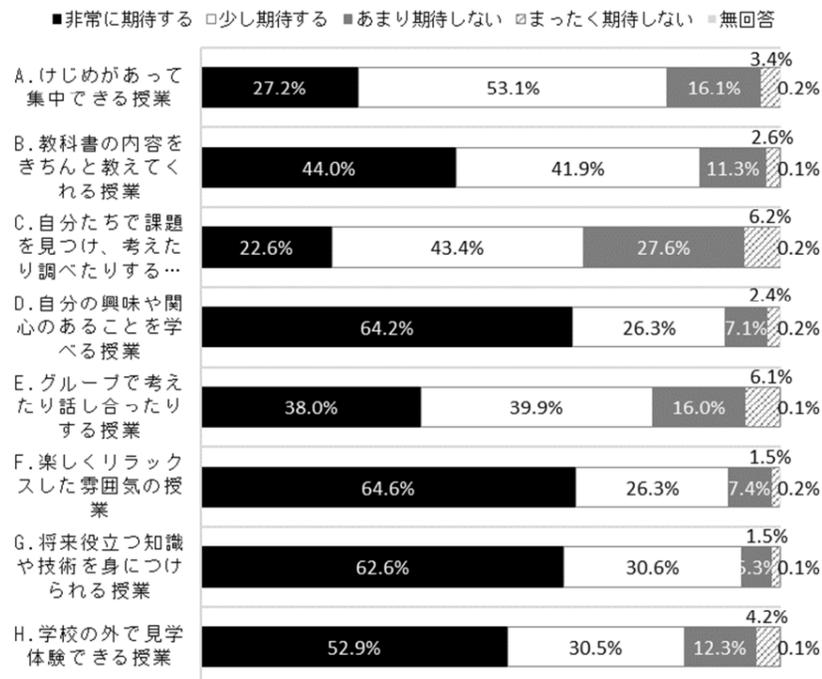
「いまくらいの勉強がちょうどよいと思う理由」

- 1 勉強以外のこともやりたいから 53.2%
- 2 今状態が自分に合っているから 17.3%
- 3 勉強はやらなければならないものだから 11.4%

「勉強はもうしたくないと思う理由」

- 1 勉強がきらいだから 47.9%
- 2 勉強以外のこともやりたいから 16.1%
- 3 体力的・精神的につらいから 15.6%

④ 授業への期待 報告書 p. 42
「課題をみつけ」、「将来役立つ知識や技能」のびる

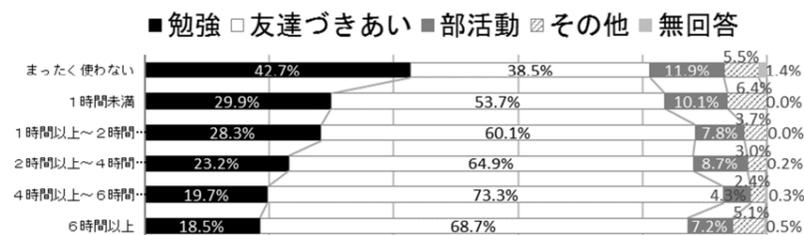


あらゆるタイプの学校の授業に高い期待を寄せている。特に、「楽しくリラックスした雰囲気、自分が興味や関心があること、また将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」への期待が大きく、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」、「将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」は、2000年と比べて増加傾向がみられる。2021年9月よりタブレットが一人一台貸与され、授業中でのインターネット利用が進むなど学習環境が大きく変わる中、次回、どう変化するか注目される。

③ 学校で一番大切なもの「友だちづきあい」減少傾向 報告書 p. 37

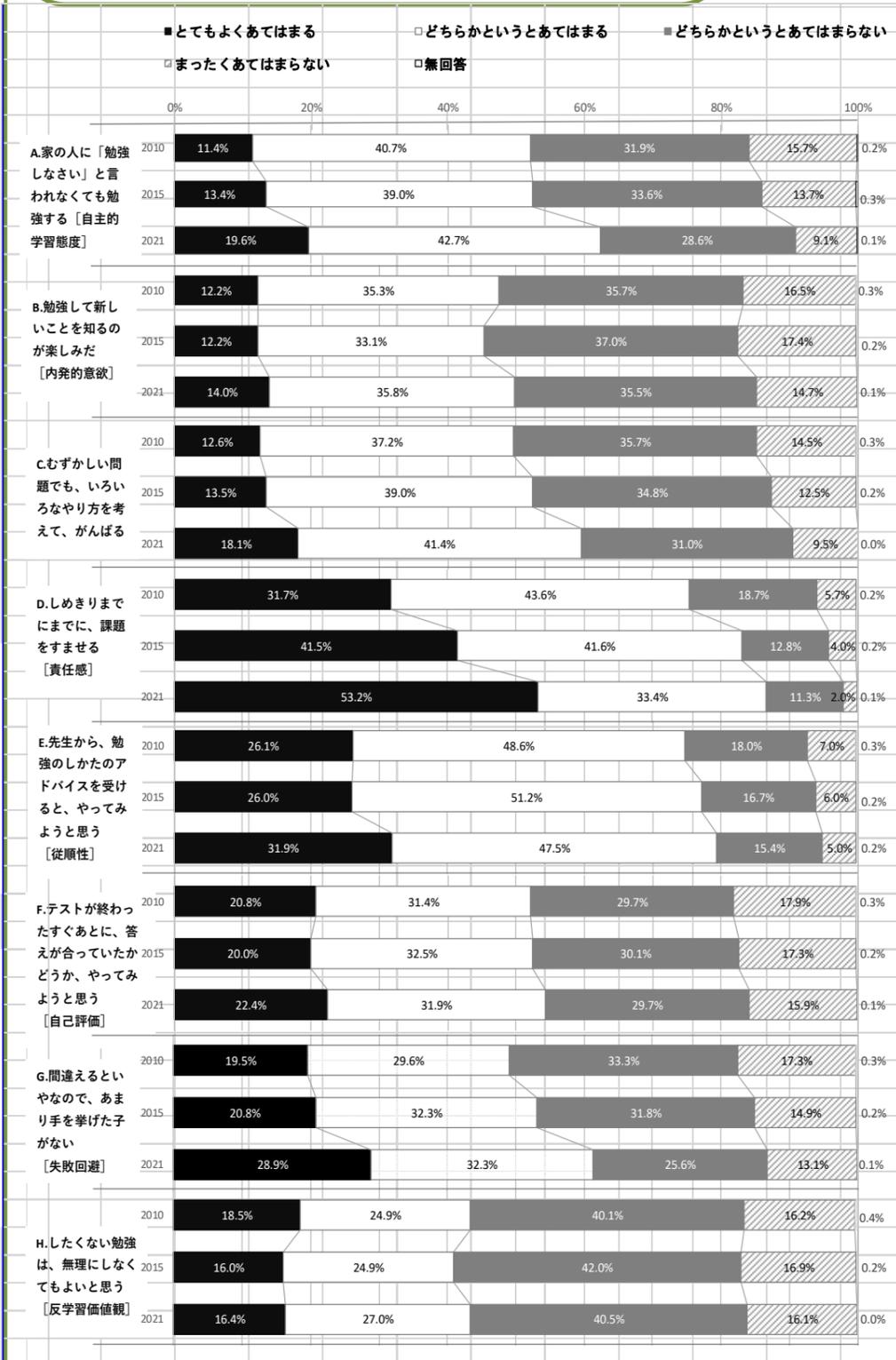


⑥ SNS 利用時間が長いほど「友だちづきあい」は大切 報告書 p. 37



一番大切なものとして「友だちづきあい」が減ったのは、SNSなどで学校以外でも友だちとつながれるからと推定したが、そうではなかった。別の要因があるのだろう。

⑥ 学習の意欲 報告書 p. 56
急速に伸びた「責任感」、一方「内発的意欲」伸びず



学習意欲の促進傾向を示す項目で、「まったくあてはまらない」が減少し、全体としては、「学習意欲」が高まってきている。「宿題のしめきりを守り、先生のアドバイスに従いながら、自ら勉強に取り組む生徒」が増えている。一方で失敗を回避したいという気持ちも強くなってきており、新しいことを知ることワクワクするような内発的意欲の伸びは大きくない。失敗することを回避するのでなく、失敗は成長のきっかけになるという考え方や、新しいことを知ること楽しいといった内発的意欲を伸ばすよう教材や導入など授業の工夫や学習を励ます評価の充実などに取り組む必要があるのではないだろうか。

調査のまとめと今後の課題

1. 56年間の時系列比較

第1回から一貫して下がり続け、近年は低い位置での横ばいの傾向にあった「勉強の意欲」だが、今回の調査では、前回に引き続き「もっと勉強をしたい」「よくわかる」と答えた生徒の割合が増加し、古典的学習観に基づく7つの項目すべてで、望ましい選択肢が増えた。2000年以降の20年間の変化をどう解釈したらいいのだろうか。グローバル経済の中で産業構造も変化してきた。また少子化が進み、多様な進路選択として様々なタイプの高校が設置され、選抜試験のあり様も変わってきた。「ゆとり教育」、「脱ゆとり教育」、「GIGAスクール構想」など、様々な教育施策が実施されてきたが、その効果が調査結果に現れていると嬉しいのだろうか。

2. 2021年度 中3生徒の学習意識

・勉強時間の増加と二極化

毎日学習する習慣を持つ生徒は、1965年には7割弱だったが、学習塾に通う生徒の増加につれて減少し、2005年には2割まで減少した。今回3割に達し、また一日の勉強時間も増加した。特にその傾向は女子にみられる。しかし、一方、ほとんど勉強しない生徒もほぼ1割おり、二極化がみられる。

・相談相手としての「家族」

今回「父」「母」が増加した。コロナ禍で保護者がリモート勤務等で自宅にいたこと、また学校での活動時間が制限され友だちと過ごす時間が少なかったことも影響していると考えられる。しかし「友だち」が減少傾向を示し、「自分で考える」が増加するなど「友だち」との関係が変わりつつあるのかもしれない。

・勉強の意欲の背景

今回「もっと勉強したい」と答えた生徒が35%に達した。その理由は、「進学や受験のため」が47%と一番多いが、前回と比べ8.5ポイント減少し、「勉強以外のこともやりたいから」「将来の夢や生活のためになるから」など、将来について考えている傾向もみられた。

・友だちづきあいの「友だち」とは

一番大切なものを「友だちづきあい」とした生徒は、前回大きく減少したが、今回わずかが増加した。SNS利用の「相手」について、ネット上の顔を合わせることもない相手を「友だち」と記述する生徒が見られた。学校でいつも共に過ごす友だちとは違う「友だち」の存在を示唆している。

・SNSの利用状況について (新設項目)

ほとんどの生徒が毎日スマホ、タブレット等を使用していることが確認された。コミュニケーションツールと考えていたが、技術の発達による多様な利用が急速にすすんでいることが推測される。

・授業への期待

今回も、8つすべての授業に多くの期待を生徒がよせていることが示された。特に、自分の興味や関心のあることを学べる授業、将来役立つ知識や技術を身につけられる授業、自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業への期待が、前回に比べ増加した。

・自主的に学習に取り組む生徒

締め切りまでに課題をすませ、家で勉強しなさいと言われなくても勉強する生徒が6割いることから、自発的に取り組もうとする生徒の姿が想像される。また、「むずかしくていろいろ考えてがんばる」では、6割が「よくあてはまる」と答えており、粘り強く取り組もうとする姿が見られる。

・女子は謙遜傾向がみられるが、だから控え目に答えてはいない

女子に「自身のしたことを振り返る(内省志向)」と「控えめに言う(謙遜)」傾向がみられたが、そのために「勉強についていく自信がない」「勉強がわからない」と答える傾向がみられなかった。

3. 今後の調査についての課題

「コロナ禍の生活の影響があったのか、なかったのか」については、今回の調査結果を待たなくてはならない。しかし、もし「なかった」としても、マスク生活やICTを利用した授業などさまざまな制限のある生活を送っている子どもたちが、中学3年生になった時、何を思うのか、長いスパンでみることが求められる。